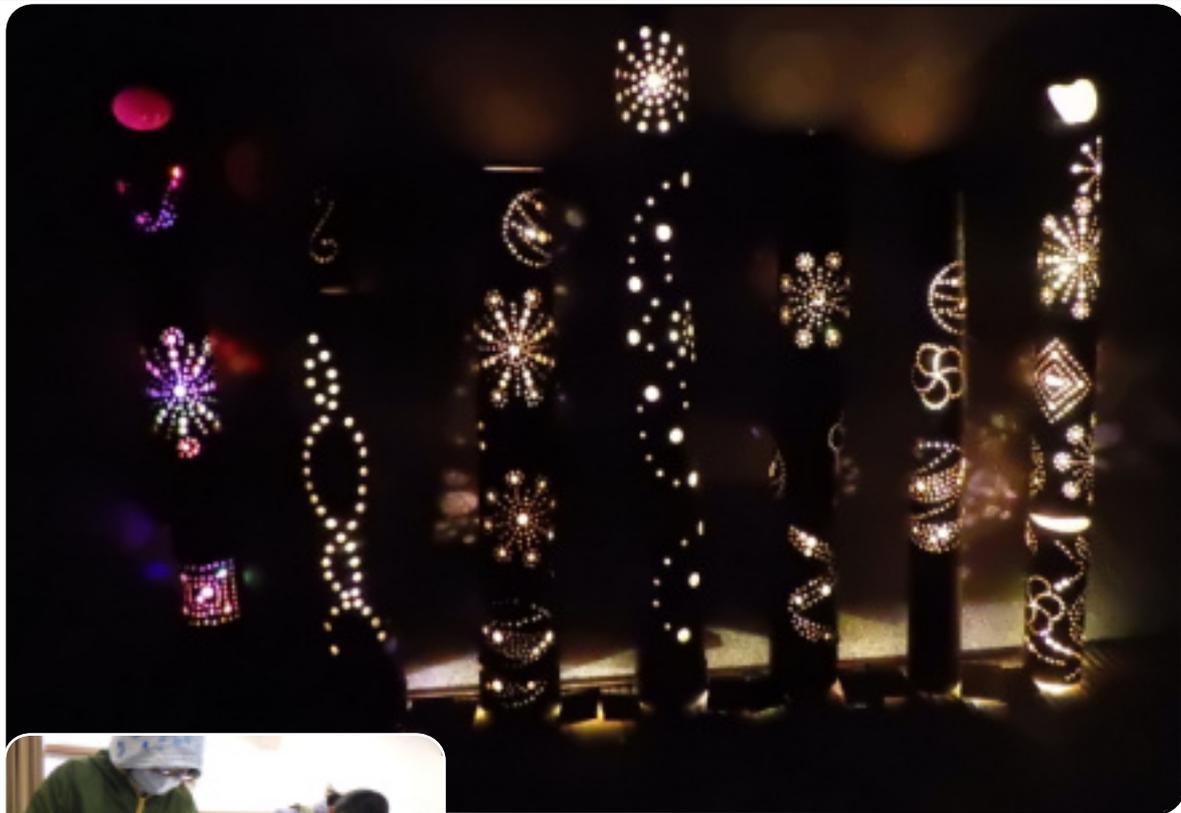




発行  
浮田地区コミュニティ会議  
電話&FAX  
0198-42-1681

タイトル画説明

今冬イチイの木に赤い実ひとつもならず、ヤマガラなどの野鳥が訪れたのはいつもの冬より遅い時期だった。野鳥に好まれないと思われるシナヒイラギの赤い実やムラサキシキブの実もまたわね。雪の上のウサギの足跡。  
絵・文(実)



竹灯り教室  
開催

東和町グリーンツーリズム運営協議会会長の藤井輝雄さんを先生に、昨年12月14日、浮田集会所で13名が参加し開催されました。

先ず、孟宗竹のカット、節抜き、竹への穴開け、竹の艶出し、割れ防止などの説明後、早速作成へ。

お孫さんと一緒に参加は2組ありました。どの作品

も見事な出来で、

イルミネーションを取付けると、更に綺麗に仕上がりました。

作品は、クリスマス、正月と大活躍したことでしよう。



(辰)

火災防  
御訓練  
祭

また、同日午後からは浮田中央公民館主催による上浮田集落の火防祭が行われました。神事後、お焚き上げ、駐在所・消防署による講話があり、今年1年の祈禱を行いました。(賢)



1月26日、文化財防火デーの一環として、上浮田「幸神社」で火災防訓練が行われました。花巻市消防団21分団が出勤し、ホースを繋ぎながら境内まで登り、放水するという内容の訓練でした。空気が乾燥し、火災の起こりやすい季節です。皆さん火の元には十分注意しましょう!



# 輝け！オラホの公民館大賞

2回目となるこの企画も、12月1日から点灯が始まり同月11日には、本誌編集委員により厳正な審査が行われました。結果は以下の通りです。

大賞 「毒沢公民館」

金賞 「中内公民館」

銀賞 「太田目公民館」

各公民館ともにおめでとうございます。そしてお疲れ様でした。



毒沢公民館

手探りで始まったこの企画も2回目となると、どの公民館も昨年を上回る素晴らしい光のパフォーマンスが披露されました。



中内公民館

その影響を伺わせるように、一般家庭でもイルミネーションを楽しむ様子があちらこちらに…。日が暮れると一面が真っ暗になる田舎だからこそ、灯が映え心が癒されますね。冬を彩るこ



太田目公民館

の企画、次回への期待が膨らむばかりです。(美)



石宮公民館



下浮田公民館



浮田振興センター



島公民館



高屋公民館

# シヤフルボード大会

男女、年齢、初心者も問わない！スポーツ・シヤフルボード!!(賞品あり、参加料なし)が2月1日、浮田集会所講堂で行われました。参加者18名の腕っこのいい人、初めての人も楽しめます。冬は駅伝がイメージです。シヤフルは初めて見る私も、ディスクがぶつかり合うカッキーンが勝負。腕の見せ所のスポーツゲーム。歓喜の声が上がっていました。

優勝は石宮の釣木沢さん・平野さんチームでした。

(二三)



# 「和弘さん 人権思想普及へ尽力、感謝状」

この度、2期6年の人権擁護委員並びに、在任期間中4年半にわたる花巻人権擁護委員協議会の事務局長



を勤め上げられた千葉和弘さん(中内)へ、法務大臣から感謝状が贈られました。千葉和弘さんといえば当コミュニティ会議においても副会長、またDo田舎サマーフェス・芸農まつり実行委員長としてもお馴染みの方です。

人権擁護委員の活動では、

人権相談で助言を行うなど177回に及ぶ活動に従事し、小中学生の人権尊重理念の普及・高揚のため尽力してきたことが認められての表彰となりました。今後、地域組織、特にも当会議のイベント等活動においてご支援頂けたらと願います。(多)

## 交通危険個所の木切り作業(煙突倶楽部)

11月16日、道路通行上支障の恐れがある立木の伐採作業を行いました。

場所は市道中内浮田線、外山線の一部。「特に冬期間、伸びた枝が垂れ下がりを、除雪グレーダーが避けられない」という事案解決のため、令和3年度から徐々



に伐採してきました。

この日は、煙突倶楽部会員12名が出動。伐倒の際ロープで牽引しながら行ったり、伐採木をダンプに積んで運搬したりと重労働でしたが、お陰様で安全確保、景観も美しくなりました。

本当にお疲れ様でした。

(多)

### リレーエッセー

## 祈りと文化

大昔、薬も医者もお金もない、勿論健康保険制度もなかった時代には、重い病気にかかれば、神仏に手を合わせ治癒を祈った。

普段でも家内安全・無病息災は祈り続けてきたのは根本的に変わっていないと思う。

日本民謡は全てが祈りと感謝を起源として歌われており、民謡に限らず日本の伝統文化は祈りが原点である。

私が舞ってきた浮田神楽も祈りそのものであるが、若い人たちは見たことがない、感心が無い、と勧誘に行っても興味を示さない。浮田各地で行われていたご先祖の成仏を祈る盆踊りもなくなくなった。文化の衰退は信仰心の衰退と云っても過言ではない。とりわけ、大自然からの恵みに感謝と祈りを続けたい。

(下浮田 千葉隆典)

## ゆるゆると

カントリーヘッジ(羊の生垣)へ

雪がうつすらと降り積もった朝、玄関を開けて外に出て最初に目にしたのは：ウサギの足跡！

雪の上に残された足跡は前方に細長い両後足が並び、その後方に丸く前足がトントンとずれて蹴った感じ。足跡をたどって歩けば、庭で遊ぶウサギの姿が目に見え、ちなみに日中この辺りでウサギの姿を目にしたことはない。

その翌朝も10cmほど新たな雪が積もり、玄関のまんなかを横切るウサギの足跡：たどっていけば家の周りをぐるり一周。

活動する時間帯の違うウサギと私が出会うことは難しそうだけれど、極々身近に冬毛の白いウサギが空間を共有していると感じワクワクする。

厳しい寒さのこの冬もウサギは当たり前のようにこの地で生きています。たとえ出会えずとも、共に生きている瞬間をうれしく寿ぐ。

(山本実紀)

# 「受け継がれる小正月行事」

毒沢に長く続く「小正月行事」が一月十三日、毒沢公民館に子ども達が集まり賑やかに開催されました。



毒沢公民館

この小正月行事は、餅つき、ミズキ団子、農(の)はだてが昔ながらに練り広げられます。

餅つきは臼(うす)と杵(きね)を使つての力仕事。子ども達はありつたけの力で杵を仕上げ臼へ。餅ではなく臼の縁を叩いて大笑いです。

手でこねた団子は大きさも形も様々。丁寧に刺してミズキ団子の完成です。稲わらを雪に挿す庭田植えは、今年も雪がなくて

ませんでした。野菜に見立てた藁細工を吊るす農はだてが行われ、一年の農作業の安全と豊作を祈願しました。ひと通りの行事の後は、待ちに待ったお雑煮の時間。汁餅だけでなく、小豆、胡桃などの餅が振る舞われました。子ども達はほつぺを膨らませ、美味しく頂いたようです。

みずき団子も各自お持ち帰りですが、飾り終えた団子を食べると無病息災でいられるとか。

昔からの伝統が子ども達に受け継がれていくことを願わずにはいられません。これからも続くといいいですね。(浩)



浮田中央公民館

# 事務局だより「遊報」

○今年度は福祉生活部の新しい取り組みとして「道路等環境美化事業」を行ってまいりました。道路へポイ捨て警戒のためのカメラ設置。そして今回、各家庭に「ごみゼロロング」をお配りしました。春や秋の一斉清掃などにお役立てください。



空缶などを楽に集めます

○今年も2月8日の疫病祭祀に合わせて「人形」を配布しました。コロナ感染症が猛威を振るつた令和2年から数えて5回目となります。このまつりは「春祭り」

として東和町の小学校でも教鞭をとられた、長根正樹さん(昭和6年〜平成24年臥牛出身)は切り絵作品集「おらわらしの頃の山里のくらしから」の春夏編に掲載されています。繊細な切り絵で描かれた思い出の暮らしは、郷愁を誘う作品集でした。北上の図書館にはあるようですが館内での閲覧なそうです。

○少子高齢化に対応するため、今年度から浮田地区コミュニティ会議福祉生活部の事業として「花咲け卒業祝い」という名称で、小学校と中学校の卒業生を対象に、それぞれ商品券を贈ることになりました。進学にかかる経費の一助になれば幸いです。(輝)

# 編集後記

私が子どもの頃、冬休みが終わると寒さが一段と増し、雪が降り積もりました。登下校の道や田んぼの上には一面の雪景色が広がり、その上を歩くのが日常でした。この話を娘にすると、まるでおとぎ話を聞いているかのような不思議そうな顔をされます。現代の子どもたちには、新鮮な風景かもしれません。雪がたくさん降る冬の日々を心待ちにしていることでしょう。(郁)

- 編集委員長 千田 浩志(毒沢)
- 編集長 山本 実紀(毒沢)
- 編集委員 山口 友恵(宮田)
- 千葉二三恵(中内)
- 多田 辰雄(上浮田)
- 小田島賢志(下浮田)
- 渡辺 郁美(中内)
- 竹田美由紀(宮田)
- 題字 千葉 稔(下浮田)
- 事務局 藤井 輝雄(中内)
- 小田島多賀子(下浮田)